

Title	日本医薬品企業の対米進出 - その代替案検討と可能性 -
Sub Title	
Author	岡田利雄(Okada, Toshio) 小林規威
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1980
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001980-0072">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001980-0072</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名 岡田利雄 主査 小林規威 教授  
(エーザイ株式会社) 副査 片岡一郎 教授  
所属ゼミナール 小林規威 研 小野桂之介 助教授

## 日本医薬品企業の対米進出 —その代替案検討と可能性—

海外直接投資の理論として、バーノン教授はプロダクト・サイクル理論を提唱し、その中で、米国企業の多国籍的發展は、新製品開発能力の優位性にあると主張する。これに対し山崎教授は、近年の日本企業による海外直接投資の増加は、製造工程上の優位性を持つ、標準化技術優位によるものだとしている。

日本の医薬品企業の海外進出の現状をみると、極めて低水準に止まっている。しかし、国内市場成長の鈍化、研究開発費用の飛躍的増大は、必然的により大きな市場でコストの拡散を求める海外進出の必要性を痛感させるのである。医薬品企業が対先進国進出（分析の都合上米国に限定）する場合、標準化技術で進出すべきか、新製品開発技術で進出すべきか、その可能性を検討するのが本論文の目的である。

日本の業界のこれまでの成長戦略・現在の対米進出状況、日米の市場及び企業比較を行なった上で、上記の代替案を検討した。その結果、医薬品の生命関連商品としての特性から、商品質が当然のこととして予定され、需要者が価格に鋭敏な反応を示さず、更にコスト競争が実際上の意味を持っていないことが判明した。即ち医薬品においては、新製品開発能力の優位性が対米進出を促進する唯一の要因なのである。

私の研究によれば、日本の業界は近年、新製品開発能力が著しく増大し、対米進出の可能性が強まってきているとの結論に達したのである。